

2016年度 センター試験 本試験 地理 A

第1問 地理の基礎的事項

出題範囲	気候, 農牧業, 言語, 地図・地理情報, 地形図
難易度	★★★☆☆
所要時間	11分
傾向と対策	例年どおり, 2016年度も気温や農業, 言語, 地形・地図など, 幅広い分野から出題された。第1問では世界地図の運用, 地図の基本用語とその意味, 大地形の広がり, 気温の日較差・年較差をもたらす要因, 地域・気候帯別の農業の特徴, 母語人口順位といった内容が問われる。いずれも重要な知識であるので, 地図を用いながら基本的な事項をもれなく整理して解答しよう。

問1 1 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

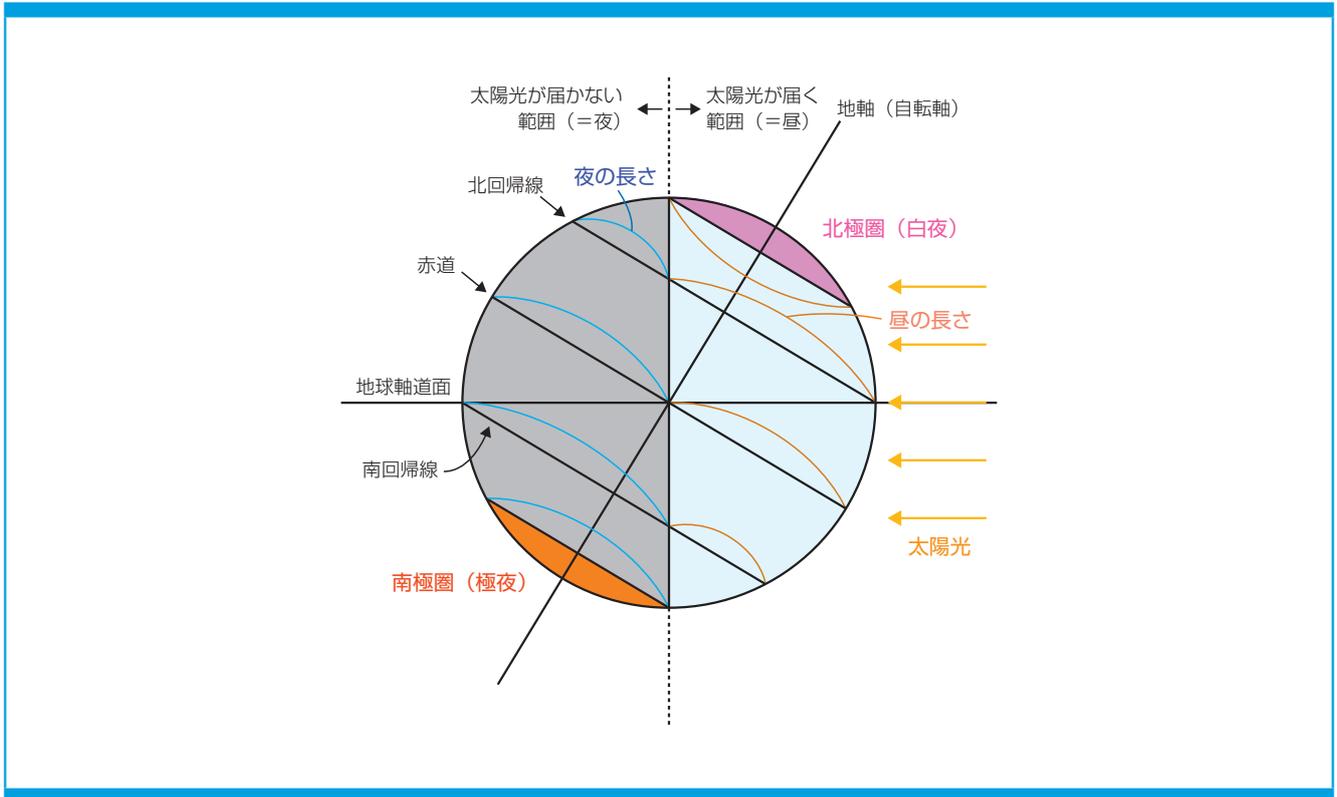
解説

世界地図の読み取り問題。この問題は地図上の位置関係を利用した、非常に基本的な内容なので、しっかりと解けるようにしたい。ちなみに、Aは緯度0度・西経150度、Bは南緯30度・西経150度、Cは南緯30度・西経120度をそれぞれ示している。

- ① 正 地軸は23度26分傾いているので、北半球が夏のときは北半球で昼間の時間が長くなり、逆に南半球では短くなる。夏至の日にはこの差が最大となる。南極から北極に向かって行くにしたがって、昼間の時間が長くなっていくと考えればよいので、赤道上に位置しているAのほうが、南緯30度線上に位置しているBよりも昼間は長くなると考えられる。1日中太陽が沈まない現象を白夜、1日中太陽が出てこない現象を極夜とよぶ。白夜や極夜が観測される地域は北緯66度34分以上（北極圏）、または南緯66度34分以下（南極圏）である。
- ② 誤 経度差と時差の関係を利用した典型的な問題。経度は360度で一周。 $360 \div 24 = 15$ であるから、経度が15度違うと時差が1時間生まれる。BとCの2地点の経度差は30度であるから、時差は2時間になる。2地点の緯度は同じであるので、日が沈む時刻もそれぞれ同じであると考えてよい。よって、BよりもCのほうが2時間早く日が沈むと考えられる。経度が15度違うと時差が1時間生じるというのは頻出事項なので、忘れていた人は覚えてしまおう。
- ③ 誤 地球一周の距離（赤道一周の距離）は、約4万kmである。緯線は赤道に近いほど長く、極点に近づくほど短くなるが、経線はどれもほぼ同じ長さ（ $4万 \div 360 = 約110km$ ）であるから、緯度1度あたり約110kmである。AとBの2地点の緯度差は30度であるから、AB間の距離は約3,300kmとなる。緯度1度あたり約110kmという事実は知っておくと便利なので、覚えておこう。
- ④ 誤 大圏航路は2地点間の最短コースを表している。図1のようなメルカトル図法の地図では、高緯度ほど

距離や面積が拡大されて表される。そのため、普通メルカトル図法の地図の 2 地点を直線で結んだ経路と大圏航路は異なる。ただし、赤道上で経度差が 180 度以内の 2 地点や、同じ経線上の 2 地点を結んだ場合のみ、例外的に大圏航路と一致する。メルカトル図法は、常に経線と一定の角度で交わる**等角航路**を直線で表すことができるため、**海図**として用いられてきた。

◆参考 白夜と極夜



問 2 2 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

それぞれの国の、高度別の陸地面積の割合を考える問題。難しくみえるが、ポイントをおさえればスムーズに解くことができる。解き方の流れを理解しよう。

- ① **ウ**が該当する。ほとんどが 200m 未満の低地なので、ガンジス川デルタが国土の大半を占めている**バングラデシュ**だとわかる。ガンジス川デルタでは米の栽培が盛んである。バングラデシュはモンスーンやサイクロンの影響で降水量が多く、国土が低平なため、しばしば洪水の被害に見舞われる。
- ② **エ**が該当する。全体的に高度が低く、ほとんどが 1,000m 未満である。アマゾン川流域など、標高の低い地域が国土の大半を占める**ブラジル**が当てはまる。よって、正解は②である。
- ③ **ア**が該当する。平地から高山まで広く分布している。これに当てはまるのは、北部に**新期造山帯**の**アルプス山脈**をもち、国土の中央を**新期造山帯**のアペニン山脈が通る**イタリア**である。ちなみに、イタリアとフランスの国境線上にはアルプス最高峰のモンブラン (4,808m) がある。

- ④ イが該当する。500m 未満の土地が少なく、全体的に標高が高い。これに当てはまるのは、アフリカ大地溝帯に属し、平均標高 2,300m のエチオピア高原が国土の大半を占める**エチオピア**である。エチオピアは内陸国であり、低地が少ないこと、アフリカ最古の独立国であることもあわせておさえておこう。

問 3 3 正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

気温の年較差のグラフを見て、それぞれに該当する地域を判断する問題。気温の年較差は、最暖月平均気温と最寒月平均気温の差から求められる。一般的に**高緯度地域や内陸部で大きく、低緯度地域や沿岸部で小さくなる**。このことがわかっていればかなり楽に解ける。

- E ②が該当する。全域が内陸の**サハラ砂漠**に含まれている。乾燥帯は気温の年較差、日較差ともに大きくなる。
- F ④が該当する。**赤道直下**の地域で、年較差がかなり小さい。
- G ③が該当する。中央部は内陸の乾燥帯の**グレートサンディー砂漠**が広がっているが、沿岸部は降水量が多く、**温帯地域**が広がる。そのため、東西両端の年較差が小さく、中央部で逆に大きくなっている。
- H ①が該当する。4つの地域の中で**最も緯度が高い**ため、年較差が大きくなる。ただし、西端付近は沿岸部であるため年較差は小さくなっている。

問 4 4 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

乾燥地域における農業に関する問題。それぞれが明確な特徴をもっているので、比較的容易に解けるだろう。

- カ J のモロッコが該当する。オアシスでナツメヤシを栽培するのは、**乾燥帯**の農業の特徴である。
- キ K のモンゴルが該当する。ヤクは**年中低温な高地**で飼育することのできる、数少ない家畜として知られている。荷役に使用されるほか、食用（乳、肉）にもなる。また、フンは乾燥させて燃料として用いられる。
- ク L のアメリカが該当する。地下水を利用した**センターピボット方式**により、**土壌の塩類化**が進んでいる。特に、L 地域では、使用される地下水の塩分濃度が高いため問題が深刻化している。また、地下水を汲み上げすぎること、地盤沈下が発生するおそれがある。

よって、カが J、キが K、クが L になる組み合わせの①が正解である。

問 5 5 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

代表的な穀物の生産量から当該地域を考える問題。比較的特徴がはっきりと出ていてわかりやすい。

- ① **ヨーロッパ**が該当する。やせ地の多い北部でジャガイモを栽培し、冷涼な地域で広く小麦を栽培しているた

め、イモ類、小麦の生産が多くなっている。

- ② **北アメリカ**が該当する。アメリカはトウモロコシ生産世界 1 位で、世界の 3 分の 1 のトウモロコシを生産している (2014 年)。また、小麦の生産は、アメリカ、カナダともに多い。
- ③ **アジア**が該当する。米の生産がずば抜けて多い。米は高温多雨であるインド、中国、東南アジアを中心に栽培される、代表的な自給的作物である。
- ④ どの作物の生産もそれほど多くないので、人口爆発と貧困で慢性的な食糧不足に見舞われている**アフリカ**が該当する。アフリカではトウモロコシのほかにも**もろこし (ソルガム)**などの、高温乾燥地域でも栽培可能な作物が生産されている。

問 6 6 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

言語別人口と公用語にしている国の数から該当する言語を考える問題。言語別人口の **1 位は中国語**、**2 位はスペイン語**、**僅差で 3 位は英語**である。頻出事項なので覚えておこう。

- ① **ロシア語**が該当する。言語別人口は 2 億人弱で、公用語にしている国の数も少ない。ロシア語はロシアをはじめ、旧ソ連地域の一部で話されている言語である。ロシア語がスラブ系の言語であることと、キリル文字を使用していることもあわせて覚えておこう。
- ② 世界で 2 番目に言語別人口が多い**スペイン語**が該当する。スペインのほかに、旧植民地のラテンアメリカ地域 (ブラジルを除く) などで話されている。なお、ブラジルはポルトガルの植民地だったため、ポルトガル語が使われている。
- ③ 4 つの選択肢の中で、最も母語人口が少ない**フランス語**が該当する。アフリカの旧フランス植民地などで話されているため、公用語にする国の数は多い。
- ④ **英語**が該当する。3 番目に母語人口が多く、イギリスやアメリカ合衆国の旧植民地地域を中心に、公用語にしている国の数が突出して多い。

問 7 7 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

地図の性質についての正誤問題。頻出分野でありながら学習機会が少なく、盲点となりがちである。知っていると解けない問題が多いので、知識の漏れは少なくしていきたい。

- ① 誤 2 万 5 千分の 1 地形図は 5 万分の 1 地形図より**縮尺が大きい**。縮尺の大小は混同しがちである。特定の地域が大きく描かれている地図は縮尺が大きく、小さく描かれている地図は縮尺が小さいと覚えよう。
- ② 誤 海図は**正角図 (メルカトル図法など)**が用いられる。**正距方位図法**が用いられるのは、航空機の航路選定のときなどである。正距方位図法はその名のとおりに、中心からの距離と方角が正しく示される地図である。

- ③ 正 観光地図は、観光スポットの案内を主眼に置いた地図であるので、多くの場合、正確な地理的情報は重視されず、距離や方位は無視される。なお、観光地図はイラストマップに分類される。
- ④ 誤 土地利用図は土地の利用状態などを調べ、色分けして表した主題図である。主題図には人口分布などを表すドットマップや、降水量を表すメッシュマップなどが含まれる。一般図とは、2万5千分の1地形図などの地形図を指す。

今回は問われていないが、実測図と編集図の違いも頻出事項である。実測図は実際に測量をして作成した2万5千分の1地形図などを指し、編集図は実測図を元に編集した、5万分の1地形図などを指す。

問8 8 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

立体地形図の読み取り問題。地図を大きく手前・奥、右・左、中央に分け、標高の高低を読み取っていくとわかりやすい。

タ Y が該当する。左奥の標高がとても高くなっており、左中央部に低地が広がっている。

チ X が該当する。手前左から中央にかけて低地が広がり、左奥がやや高い。

ツ Z が該当する。左奥と右手前が高くなっており、右奥から中央部にかけて低地が広がっている。

よって、タがY、チがX、ツがZの組み合わせになる③が正解である。

(來住直哉, 高橋粒)

2016 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 2 問 日本の自然環境と防災

出題範囲	日本, 地形, 気候, 自然災害, 地形図読図
難易度	★★★☆☆
所要時間	7 分半
傾向と対策	例年, センター地理 A の第 2 問では, 国境を越えたさまざまな結びつきをテーマとした問題が出題されているが, 2016 年度は新傾向として, 日本の自然環境や災害に関する問題が出題された。特に日本地誌は, 地形図読図問題などが大問中で問われることもあるので, しっかりと対策しておきたい。液状化現象に関する問題では見慣れない図表が出てきたが, 基本事項に立ち返って考えられるようにしたい。地形図読図問題も必ず得点しよう。

問 1 9 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

日本の地形, プレート境界と地震についての問題。日本周辺のプレートの分布などをもう一度確認しておこう。まず, 日本は 4 つのプレートの境界に位置する国であり, それぞれのプレートは, 北海道付近の**北アメリカプレート**, 日本海側の**ユーラシアプレート**, 東部の**太平洋プレート**, 南部の**フィリピン海プレート**である。太平洋プレートは, 北アメリカプレート, ユーラシアプレートと衝突して沈み込んでおり, その境界が**日本海溝**となっている。この境界上にあるのは**ア**である。また, フィリピン海プレートがユーラシアプレートと衝突して潜り込んでいる境界は**南海トラフ**である。これに該当するのは**エ**である。

よって, 震源がプレート境界付近であった地震は**ア**と**エ**なので, この組み合わせとなる**③**が正解である。各震央がどの地震によるものなのかも確認しておこう。

◆参考 日本列島と地震プレート



◆参考 日本の大地震

ア：東北地方太平洋沖地震（2011）

イ：福井地震（1948）

ウ：兵庫県南部地震（1995）

エ：昭和南海地震（1946）

ウの兵庫県南部地震は、阪神淡路大震災を引き起こした直下型地震であることも覚えておきたい。なお、イの福井地震も直下型地震である。

問 2 10 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

日本における強風日、積雪日、多降水日、真夏日ごとに、その頻度を示した分布に関する問題。日本の気候は、山脈など地形と結びつけて考えるとわかりやすくなるので、あわせて覚えておくようにしたい。

- ① 北海道、東北地方は△（小）が分布しており、おもに海岸沿いの地域で多くなっている。これは多降水日である。判断の際に注目したいのは中国・四国地方で、瀬戸内海付近は日数が少ないが、日本海・太平洋側は日数が多くなっていることである。瀬戸内海付近では、中国山地、四国山地に阻まれて、湿気を含んだ風が山地を越える前に雨を降らせるため、乾燥した気候になっている。また、北海道や東北地方で△が多いのは、多降水日よりも、積雪日のほうが多くなるからであると考えられる。そのほか、九州地方は全体的に降水量が多くなっているため、それも判断のポイントにしたい。
- ② 九州、中国、四国地方で日数が多いのは①と同じだが、近畿、東海地方西部でも日数が多いのが特徴的である。また、内陸部にも●（多）がみられる。内陸部でフェーン現象が起こることを考えて、②が真夏日だと判断できるだろう。内陸部に位置し、夏の気温が高いことで有名な熊谷市のある埼玉県のある辺りにも●がみられる。
- ③ 北海道や東北地方、北陸沿岸部に多く分布している。そのほかの地域ではあまり分布していないことから、③は積雪日であることがわかるだろう。①の分布図と見比べても、多降水日の少ない地域では積雪日が多くなっているなど、対応関係にあることも判断のポイントとなるだろう。
- ④ 沿岸部に多く分布している。沿岸部では風を遮る地形が少ないために台風や海陸風の影響を受けやすいことから、④は強風日だと判断できるだろう。積極的に強風日と判断するのは難しいが、北海道に●が多くみられることから、真夏日ではないと判断したい。

問 3 11 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

気象災害と、日本のその対策についての問題。

- A 誤 輪中^{わじゅう}とは、木曾川^{なごがわ}や長良川^{ながらがわ}、揖斐川^{いびがわ}などの下流域でみられる、洪水対策の堤防を巡らせた場所である。文中には、「強風による被害の低減」とあるが、これは誤りである。そもそも堤防は洪水対策として作られるのが一般的であるため、輪中に関する知識がなくともこの文が誤りであることはわかるだろう。
- B 正 砂防施設は、土砂災害による被害の軽減や土石流の抑制に対する適切な対策だといえるので、文は正しい。
- 以上より、A が誤、B が正となる組み合わせの③が正解である。

問 4 12 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

液状化現象の発生範囲と、地形に関する問題。液状化現象とは、地下水面が浅く水分を多く含んだ弱い地盤の地域において、地震などの振動によって地下水が地表に噴出し地盤が陥没する現象である。この現象は、臨海部の埋め立て地でも発生し、東日本大震災時には千葉県の浦安市などで被害が出た。これを踏まえて旧河道、自然堤防、台地について確認しておきたい。旧河道とは河川が通っていた場所であり、地下水面が浅く相対的に地盤が緩い。自然堤防とは、氾濫によって流路沿いにできた水はけのよい微高地である。台地とは台状で平坦な標高の高い場所で、地下水面が深く水を得にくいという特徴をもつ。旧河道と自然堤防は、自然堤防が旧河道沿いになるように形成され、また、台地は陥没などが生じる液状化現象の起こっていない場所に分布していると考えられる。

このことから、図 3 を見比べて液状化現象の起きていないキが台地と考えられるだろう。また、力とクの分布をよく見ると、細くなっているクに沿って力が広がっていて、力の分布している場所では液状化現象は起こっていない。よって、力が自然堤防でクが旧河道となる。

以上より、旧河道がク、自然堤防が力、台地がキとなる組み合わせの⑤が正解である。

こうした見慣れない図を扱った問題では、関連する用語の意味や性質に立ち返って着実に考えていくことが必要になる。知識を組み合わせる、地理的思考力を測る問題といえる。見慣れない図で戸惑った受験生も多いただろうが、冷静に自分の知識を組み合わせる考えていこう。

問 5 13 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

奥尻島^{おくしりとう}の、新旧地形図読み取り問題である。文章と照らし合わせて新旧地形図を見比べれば解けるので、確実に得点したい。

- ① 正 地形図中の中東部にある青苗港^{あおなえ}北側の海岸沿いを見比べると、堤防が新しく築かれている。よって、こ

の文は適当。

- ② 正 新地形図の青苗港西部付近の住宅街をみると、旧地形図では点在していた住宅が道に沿って整然と並んでいることがわかる。よって、この文は適当。
- ③ 誤 新地形図の青苗岬の先端部をみても、記念碑の地図記号があるのみで針葉樹林は見当たらない。よって、この文は適当でない。
- ④ 正 新旧地形図を見比べると、青苗という表示のある南西部に、新たに山の手という表示の住宅地が形成されている。よって、この文は適当。

(吉田七海統, 高橋粒)

2016 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 3 問 世界の生活・文化

出題範囲	東南アジア, 農牧業, 生活・文化, 宗教
難易度	★★☆☆☆
所要時間	9分半
傾向と対策	2016年度の第3問は、世界の生活・文化に関する問題だった。この分野に関しては、前後の年度の地理Aでは出題されていないことから新鮮に感じた人もいるだろう。農業や宗教、産業、資源といった幅広い知識が求められるが、問われている知識の1つひとつはそこまで難しくはないので、確実に解答したい。あとはその知識を思い浮かべて使えるかの問題である。しっかりと練習しておきたい。

問 1 14 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界の、地域ごとの農牧業に関する問題。農牧業は、その土地の地形や気候に関連しているため関連づけて考えると問題が解きやすくなる。

- ① 正 この地域は、南アメリカ大陸アルゼンチン南部の**パタゴニア**である。**パタゴニア**は南緯 39 度付近を流れるコロラド川より南に位置し、強風の吹く冷涼な**砂漠気候 (BW)**の地帯である。この地域は乾燥しているため農業には適しておらず、**牧羊**が中心である。よって、①は適当である。
- ② 誤 この地域は、南アメリカ大陸北部の**ギアナ高地**である。**熱帯モンスーン気候 (Am)**であり、乾季はあるが基本的には高温多湿である。この地域では伝統的な自給的農業である**焼畑農業**が主流で、**キャッサバ**、**トウモロコシ**などが栽培されてきた。焼畑農業とは短期間の耕作と長期間の休耕を組み合わせた農業であり、休耕によって地力を回復させてから火入れをして、また耕作を行うところに特徴がある。**茶の栽培は行われない**ので②は適当でない。よって、②が正解となる。茶のおもな栽培地は中国、インド、ケニア、スリランカなどである。コーヒーは地理的に近いブラジルやコロンビアでは栽培されているが、この地域ではあまり栽培されていない。
- ③ 正 この地域は、ヨーロッパ大陸の**スペイン**である。気候は、夏季乾燥、冬季湿潤の**地中海性気候 (Cs)**である。植生としては、植物の成長にとっては重要な夏季に乾燥するため、夏の乾燥に耐えられる小さく硬い葉をもつ**硬葉樹**が発達する。よって、**オリーブ**、**コルクがし**、**柑橘類**の栽培が盛んである。以上より、③は適当である。
- ④ 正 この地域は、ヨーロッパ**黒海沿岸のウクライナ**付近の地域である。**ステップ気候 (BS)**の半乾燥地域であり、肥沃な黒色土である**チェルノーゼム**が分布しているため、**小麦の一大穀倉地帯**である。実際にウクラ

イナの小麦の生産量は多いので、④は適当である。

問 2 15 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

世界の住居に関する問題。住居は環境や気候に応じて形態が変化することが多く、写真からその地域に合った建築の特徴を読み取っていききたい。

ア H が該当する。特徴としては、家と地面との間に空間がある高床式になっていることである。バイカル湖周辺の H 地点は亜寒帯冬季少雨気候 (Dw) であり、寒冷で、永久凍土が広がっている。この永久凍土層が建物や暖房の熱で溶けて家が傾くのを防ぐために、このような高床式の住居が採用されている。

イ F が該当する。イの写真は中央アフリカのあたりで、地域にある草木などの材料で作れる伝統的な家屋である。

ウ G が該当する。ウの写真のように洞窟のような場所に住んでいる地域では、一般的に降水量の少ないことが多い。また、トルコは世界遺産のカップパドキアで有名である。

以上より、アが H、イが F、ウが G となる組み合わせの⑤が正解である。

問 3 16 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界の宗教に関する問題。この問題に関しては、細かい知識ではあるが覚えておいたほうがよいだろう。

① 誤 ヴアラナシは、ヒンドスタン平原のガンジス川沿いにあるヒンドゥー教の聖地である。この地域で有名な礼拝方法は、ガンジス川で沐浴をしながら祈りを捧げるものである。よって、この写真とは一致しない。

② 誤 ブッダガヤはインド北東部ビハール州にある都市で、ブッダが悟りを開いた土地として有名である。この地域にはブッダガヤの大菩提寺だいぼだいじやブッダが悟りを開いた場所といわれる菩提樹などがある。この写真とは一致しない。

③ 誤 メッカは、メディナと並んでイスラーム教の中心地とされている場所で、カーバ神殿などの神殿がある。メッカの場合はモスクに入って礼拝を行うことが多いため、③は不適当である。

④ 正 写真 2 は、ユダヤ教の聖地エルサレムにある嘆きの壁である。この壁は、かつてエルサレム神殿にあった壁とされていて、ユダヤ教の聖地として現在も残っている。よって、この文は適当であり、正解は④となる。

問 4 17 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

東南アジアの総合的な知識を問われる問題。1 つひとつの選択肢を、冷静に吟味することが大切である。

- ① 誤 P は**チャオプラヤ川**である。この付近では天然ゴムも栽培されているが、主要農作物は**米**である。また、天然ゴムはインドシナ半島の南部が栽培の中心地である。よって、文は適当でないので正解は①。
- ② 正 Q は**南シナ海**である。この海域では、**南沙諸島**を巡って中国・台湾・ベトナム・フィリピンなどが領有権を主張して対立している。ニュースで中国が滑走路を建設していてアメリカなどが反発していると報道されたことは、記憶に新しい。よって、文は正しい。
- ③ 正 R 海峡は**マラッカ海峡**である。この海峡は古くからの主要航路であり、日本の石油タンカーのほとんどがここを通るなど海上交通において重要な地点である。もし、この海峡が何らかの理由で使えない場合は迂回して大回りの航路をとることになり、非常に不便である。よって、文は正しい。
- ④ 正 S 山は**ジャワ島**にあり、新期造山帯の**アルプス＝ヒマラヤ造山帯**に属している。よって、④は正しい。

問 5 18 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

東南アジアの島々に関する組み合わせ問題である。この問題に出てくるすべての島々に特徴があり、どれも重要なため、この問題でおさえおくのがよいであろう。

- X フィリピンの**ミンダナオ島**に該当する。この記述に合致するのは**キ**である。この島は、長年スペインの植民地であった影響で、キリスト教徒が多いほかの島々と違ってイスラーム教徒が多い。また、イスラーム教徒のモロ人がモロ民族解放戦線を作って蜂起するなど、内戦状態だった時期もあった。
- Y インドネシアの**スマトラ島**に該当する。この記述に合致するのは**カ**である。この地域では、油やしのほかにコーヒー、天然ゴムの**プランテーション農業**が行われている。また、スマトラ島北部にはかつてアチェ王国という国が存在していた。オランダによる植民地化を経てインドネシアの一部となっていたが、自由アチェ運動による分離独立運動が発生した。
- Z インドネシアの**バリ島**に該当する。この記述に合致するのは**ク**である。インドネシアの多くの島はイスラーム教徒が多いが、バリ島は歴史的経緯から**ヒンドゥー教徒**が多く、この土地独自の文化も多いため観光地として有名である。

以上より、X がキ、Y がカ、Z がクとなる組み合わせの③が正解である。

問 6 19 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

東南アジア諸国における、外国からの影響に関する問題。各国の状況に関して歴史的経緯を理解しておくときやすい。

- ① 正 シンガポールの人口の**75%**は**華人**であり、そのこともあってマレーシアから独立したという背景があ

る。また、公用語は中国語、英語、マレー語、タミル語であるので、この文が最も適当である。

- ② 誤 日本からタイに進出しているのは小売業より**製造業**が多く、日本を中心とした外国資本・技術によりタイの工業は急速に発展している。
- ③ 誤 ベトナムは社会主義国であることも影響して、大半の国民が**無宗教**である。また、旧宗主国のフランスも長期間ベトナムを統治していたわけではないので、宗教に対して与えた影響はそれほど大きくないと考えられる。
- ④ 誤 マレーシアには**ずの鉱山**や天然ゴムのプランテーションが存在し、そのための労働者として多くの移民が流入したが、それはおもに**中国**や**インド**からであり、アフリカからの移民は少数である。マレーシアはイギリスのかつての植民地であり、同じイギリスの植民地であるインドや、距離的に近くて人口の多い中国からの移民が多い、と覚えておけば誤りが少なくなる。

問 7 20 正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

東南アジア諸国の図を比較して考えていく問題。各国の経済状況や主要産業を照らし合わせて考える必要がある。

サ **1人あたりの GNI** が該当する。マレーシア、シンガポール、ブルネイが入っていることが特徴である。ブルネイやマレーシアは、天然ガスや石油などのエネルギー資源に恵まれていて、シンガポールは製造業や金融業が盛んで経済的に発展しているため 1人あたりの GNI が高い。なお、インドネシアも石油や天然ガスを産出するが、人口が多く国内消費量が多いため輸出にあまり回っておらず、1人あたりの GNI はそれほど高くない。

シ **GDP に占める製造業の割合** が該当する。農業国であり、工業が未熟なラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー以外は高位である。一方、東南アジア全体では工業化による経済発展が続いている。

ス **シ**では農業国として挙げられたラオスやカンボジアが高位にあることから、**農業就業者比率**が該当する。

以上より、**サ**が人口 1人あたり GNI、**シ**が GDP に占める製造業の割合、**ス**が農業就業者比率となる組み合わせの**③**が正解である。

(後藤尚丈, 高橋粒)

2016 年度 センター試験 本試験 地理 A

第 4 問 地球的課題と世界の結びつき

出題範囲	林業，環境問題，自然災害，社会問題，都市，貿易，第 3 次産業，交通・通信
難易度	★★★☆☆
所要時間	13 分
傾向と対策	2016 年の第 4 問は，過去のセンター地理 A の中でも多岐にわたる分野から出題されている大問である。小問で資料が示されることは多いが，そこから導き出される途上国と先進国の格差，日本の貿易の現状といった諸問題を捉えるためには，基礎知識が不可欠である。資料を用いて出題された際にいきなりイメージのみで考えるのではなく，まずは地理学習で培った知識に当てはめられないかを考えるようにしよう。

A

問 1 21 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

問題文にあるように，森林伐採の理由は先進国と途上国で異なり，林業分野の問題としては頻出である。

- ア アジアが該当する。用材，薪炭材^{しんたんざい}両方が多い。これは，熱帯林が豊富な東南アジアなどの発展途上国を中心に薪炭材としても大量の森林が伐採されている一方で，都市化が進む地域では，建築資材や，紙の原料となるパルプとしての利用が盛んだからである。また，アジアは世界最大の人口を抱える地域なので，表の数字が大きいことから判断できよう。
- イ アフリカが該当する。薪炭材としての利用が圧倒的に多い。アフリカでは，人口増加による穀物生産地の拡大のための森林伐採や，身近な生活エネルギー資源としての薪炭材の利用が多い。森林の回復スピードを上回る勢いで伐採が進んでいるため，熱帯林の減少が大きな問題となっている。
- ウ 北アメリカが該当する。用材の利用が多い。北アメリカに冷帯の地域を中心に豊富な森林資源があり，用材として古くから盛んに利用されてきた。一般的に，先進国では燃料としては木材よりもエネルギー効率の高い石油や天然ガスなどの利用が盛んであるため，薪炭材の利用はあまり多くない。アメリカ合衆国とカナダが先進国であることから，北アメリカの薪炭材の利用は多くないといえる。

以上より，アジアがア，アフリカがイ，北アメリカがウとなる組み合わせの①が正解である。

問 2 22 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

世界遺産をテーマにしてはいるが，本質は自然災害の理解である。確定の難しい選択肢も含まれるため，消去

法による解答が望ましい。

- ① 正 グレートバリアリーフは、オーストラリア北東岸にある巨大なサンゴ礁である。この地域を襲う熱帯低気圧であるサイクロンは、サンゴ礁の損傷をもたらす。また、水質の悪化や海水温の上昇によるサンゴの死滅も問題となっている。この文が最も適当。
- ② 誤 ギリシャの古代遺跡であるアクロポリスは、風雨や幾度にもわたる戦争の結果、石造りの神殿が崩壊している。しかし、丘の上に建設されているため、洪水の被害を受けるとは考えにくい。
- ③ 誤 アルプス山脈に位置するスイスの山岳氷河が後退している原因としては、地球温暖化による積雪量の減少や氷河の融解が挙げられている。雪解け水による洪水と相まって観光業に打撃を与えている。
- ④ 誤 モアイ像は紛争や地震によって倒壊していると考えられる。エルニーニョ現象はペルー沖の海水温が上昇する現象であって、海面上昇とは関係がない。

問 3 23 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

児童労働についての問題。文章をよく読めば、違和感のある記述が含まれているので判別できるはずである。

- ① 正 貧しい発展途上国では、家計を支えるために子どもが仕事に従事していることが少なくない。特に落盤や滑落、器具の使用による事故の危険性の高い鉱山労働は問題となっている。下線部の記述は適当。
- ② 正 ストリートチルドレンとは、都市の路上で生活している子どものことである。途上国の一部の都市では人口密度の高いスラムが存在し、衛生面や犯罪率の高さから社会問題となっている。記述は適当。
- ③ 正 途上国における教育の充実が住環境を整え、貧富の差を是正し、長い目で見たときに国が安定的に成長していくうえで非常に重要である。日本からも JICA（青年海外協力隊）などの組織が、途上国で教育面の支援を行っている。
- ④ 誤 発展途上国の農産物が不当に安い値段で取引されているという反省から、適正な値段で取引することで農業従事者にも一定の所得が入ることを目的に、フェアトレード運動が行われている。身近な例としてカカオが挙げられる。これと逆行する下線部の記述は誤りだとわかる。

問 4 24 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

見慣れないトイレに関する指標を用いた問題。衛生面とかかわりのある経済的な豊かさに帰着させればよい。

- ① サハラ以南のアフリカが該当する。図 1 中で、最も衛生的なトイレを使える人の割合が低い。サハラ以南のアフリカ是最貧国の部類に入る国が多く、疫病の発生や HIV の患者数の増加などが問題視されている。貧しい国々では、衛生面の対策が十分に取られているとはいえないのが現状である。
- ② 南アジアが該当する。1990 年から 2012 年にかけて都市部と農村部両方で衛生的なトイレを使える人の割

合が増加していることがわかる。南アジアは、貧困と人口過多によって衛生的な環境が十分に整備されているとはいえないが、経済の発展に伴い衛生環境も改善してきている。

- ③ **ラテンアメリカ**が該当する。この選択肢を積極的に選ぶことは難しいが、ラテンアメリカの国々は古くから都市人口率が高かったことを考えれば、すでに整備が進んでいた都市部よりは農村部の衛生環境の整備のほうが進むはずである。
- ④ **オセアニア**が該当する。オーストラリア、ニュージーランドといった先進国がこの地域の中心であり、太平洋の島々も、都市部では衛生的なトイレを使える人口割合がもともと高かったと考えられる。

B

問 5 **25** 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

それぞれの指標をどのように考えるかが重要である。例えば、旅行サービスによる収支が黒字なら、旅行関連のサービスでその国の国民が外国で使った額より、外国人がその国で使った額のほうが多いことを示す。これを念頭に置いて考える。

- ① **スイス**が該当する。スイスは**金融・保険業が伝統的に盛ん**である。また、アルプス山脈に位置し、多数の観光地があるため観光サービスも黒字である。その反面、国が山中に位置しているために輸送面などを外国に依存することが多いと考えられる。
- ② **シンガポール**が該当する。シンガポールには国際的な証券取引所があり、金融業が盛んである。また、大きな**ハブ空港**をもつため空輸業も盛んであり、伝統的に海運の要衝となってきた歴史から海運も盛んである。よって、輸送サービスは黒字。シンガポールは観光立国としても有名であるが、近年は経済成長によって海外旅行をする国民が増えているため、旅行サービスが赤字となっている。
- ③ **オランダ**が該当する。特筆すべき項目は輸送サービスの黒字である。これは、ヨーロッパの石油精製の拠点となっている**ユーロポート**を抱え、**ライン川**の河口に位置する**ロッテルダム**があり、ヨーロッパの貨物取引の中心となっているためである。
- ④ **カナダ**が該当する。図中で唯一、すべての項目で赤字になっている。これは、隣国アメリカ合衆国にサービスの多くの面で依存しているためと考えられる。

問 6 **26** 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

情報通信技術に関する問題。この小問を間違えた人は大いに反省してほしい。注意力の問題である。

- ① 正 固定電話を整備するよりも携帯電話の基地局を作るほうがコストを抑えることができるため、途上国では急速に携帯電話が普及している。これに伴い、**携帯電話を使った商取引も拡大**しており、**ネットバンキング**

グなどの利用も増加している。

- ② 正 穀物メジャーとは、穀物を生産から流通まで圧倒的な規模で管理する多国籍企業のことを指す。穀物メジャーはその大規模な資本を生かして穀物集積所の整備や人工衛星の利用など、あらゆる面で効率化を進めており、世界の穀物価格に大きな影響力をもっている。
- ③ 誤 電子商取引は、恩恵に預かる人にとっては確かに大きな利便性をもっているが、世界中の人が利用できる状態には程遠い。逆に、情報技術を利用できない地域・世代の人にとっては不利な状況になるため、デジタルデバイド（情報格差）の問題が発生している。そもそも、連日国内外で格差の問題が取り上げられている現代において、所得格差が解消したとはとてもいえないであろう。文は適当でない。
- ④ 正 光ファイバーケーブルは全反射を利用する技術で、ほとんどロスなく、安定的に情報を送受信することを可能にした。テレビ会議に代表されるように、光ファイバーケーブルを利用した通信サービスを導入して、コミュニケーションの効率化を進めている企業もある。

問 7 27 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

日本の貿易相手国に関する問題。日本の輸出入の形は相手国によって大きく変化するため、代表的な国との貿易に関してはおさえておく必要がある。

- F アラブ首長国連邦・サウジアラビアが該当する。F の 2 国が日本の輸入相手国としては大きな割合を占めているのに対し、輸出相手国としては小さい割合にとどまっていることに着目する。これは 2 国が産油国であり、エネルギー資源に乏しい日本の主要な原油輸入先であるためである。また、人口がそれほど多くなく、日本の主要な輸出品である自動車などの機械を大量に輸入するほど国内市場が大きくないという理由もある。
- G 韓国・タイが該当する。両国とも輸出入双方で重要な位置を占めており、特に輸出先としての割合が高い。この輸出品の中心は先述の機械である。両国とも日本の企業が多数進出し、活発な商取引を行っている。地理的な距離の近さ（地理的近接性）も活発な商取引の要因である。
- H イギリス・フランスが該当する。イギリス・フランスは日本との距離が遠い。両国とも、日本のおもな輸入品であるエネルギー資源や農産物の輸入元にも、おもな輸出品である機械の輸出先にもなりにくい点もある。近年注目されている北極海を航行するルートが一般的になれば、ヨーロッパとの距離がより縮まって貿易が活発化する可能性もある。このルートが注目されているのは、地球温暖化によって北極海の氷が解けて、船が航行しやすい環境になってきたからだといわれている。

以上より、「アラブ首長国連邦・サウジアラビア」が F、「イギリス・フランス」が H、「韓国・タイ」が G となる組み合わせの②が正解である。

問 8 28 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

これも見慣れないデータである。アメリカ合衆国，ドイツ，日本それぞれの国がどの国と関わりが深いのかを考え、次にその関わりの深い国々との地理的距離を考えればよい。

カ **日本**が該当する。渡航者数が全体的に少なく，図中で距離が近い2点と最も遠い1点が特に渡航者が多い国となっている。これは島国でまわりの国との首都間距離が遠いために渡航者数が少ないこと，東京から遠く離れたワシントン D.C. を首都とするアメリカ合衆国からの渡航者が多いことを考えれば説明がつく。このように日本が絡む設問では，日本を一定の指標としてまず片づけることが正解への近道になる場合が少なくない。

キ **ドイツ**が該当する。**EU** 域内の人の移動が自由になり，この動きは非常に活発化している。そのため，周辺の首都間距離が小さい国々から非常に多い渡航者がある。これは**キ**に一致するため，ドイツだとわかる。

ク **アメリカ合衆国**が該当する。首都間距離が近い国と遠い国どちらとも関わりがあり，特に首都間距離の比較的近い2点が突出して多いことに着目する。これはカナダ，メキシコからの渡航者が多く，特にメキシコからの移民も多いアメリカ合衆国だとわかる。この3国は**NAFTA（北米自由貿易協定）**によって関税の撤廃が進み，域内貿易が活発化した。NAFTAがEUに対抗する意味合いもあったことも覚えておくとよい。

以上より，アメリカ合衆国がク，ドイツがキ，日本がカとなる組み合わせの⑥が正解である。

(高橋粒，上東茉弥)

2016年度 センター試験 本試験 地理A

第5問 地域調査（岩手県北上市）

出題範囲	地形図，交通，地図・地理情報
難易度	★★☆☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	2016年度の第5問は，地形図の読み取りを中心に日本の地域の調査を扱った。地理のセンター試験では，地理AとB両方で毎年出題される問題でもある。他の大問と比較しても出題がパターン化されており，よく資料を読み込めば解答できるものがほとんどである。対策としては，等高線から地形を判断できるようにしておく，基本的な地図記号を覚える，さまざまな資料を読み内容や傾向を読み取る力を向上させる，などがある。数年分の過去問を演習し，地域調査の問題に習熟するのが早道だ。

問1 29 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

ちょうかんず鳥瞰図の問題である。鳥瞰図は見づらくなっているが，特定の地形（山脈の方向など）に着目すれば容易に解けるだろう。

- ① **エ**が該当する。**エ**の方向から地形図を見ると，左側から尾根が張り出しているのがまず確認できる。地形図で見ると①と③は左側に山地があるが，エ地点の手前にある山地が①の手前側の山地と一致するため，①と確定できる。正解は①。
- ② **ア**が該当する。**ア**の方向から地形図を見ると，向かって右側に比較的高峻な山脈があることがわかる。右側に山地があるのは②か④であるが，④の右側の山地は丘陵地ともいべきなだらかなものになっている。よって，②と確定できる。
- ③ **イ**が該当する。①を確定させる段階で，左側に山地があり右側に手前まで平地が広がっていることから判断できる。
- ④ **ウ**が該当する。②を確定させる段階で，左側になだらかな山地があることから判別できる。

問2 30 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

問題文がやや長いですが，地形図を見て問題文の解説に沿って埋めればよい。重要な情報として，北西側がかつての南部藩領，南東側が伊達藩領であることがわかっているのだから，北西部の特徴→南部藩，南東部の特徴→伊達藩と読み替えればよい。

カが南部藩、キは伊達藩が当てはまる。

北西部では川が流れ、短冊状の水田が広がり、川からの灌漑^{かんがい}によって農業が営まれてきた形跡がある。問題文にある、灌漑設備の発達により、水田が開発できるようになったことも、「岩崎新田」といった地名からわかる（一般的に、新田とつく地名は江戸時代に開発された水田地帯を指す）。一方、南東部ではため池が各所にあり、川もないことからため池を用いて農業が行われてきたことがうかがえる。

クが伊達藩、ケは南部藩が当てはまる。

南東部には方形の農地に沿って針葉樹の植樹がされているが、北西部ではなされていないのは明らかである。以上より、キとクが伊達藩となる③が正解である。

問 3 31 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

写真と地図上の地点を符合させる問題である。これも漠然と解くのではなく、周辺施設や道路など、具体的なものに着目するのがポイントである。

サ A が該当する。サを見ると一戸建て住宅があるが、家が建っていない場所も散見される。A 地点は郊外の線路と道路の間に位置していることがわかり、サの特徴と一致する。

シ B が該当する。シを見ると、道幅の広い整備された道都沿いに比較的大型の店舗が並んでいることがわかる。これは幹線道路上に位置する B の特徴と符合する。

ス C が該当する。スを見ると、商店街のアーケードらしきものがある。また、建物が密集している。このことから、駅前の建物密集地の中にある C が該当する。

以上より、サが A、シが B、スが C となる組み合わせの①が正解である。

問 4 32 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

地域調査で頻出の、地域の工業の変化を問う問題である。ほとんどの受験生は、この地域の工業について詳しくないので、全国や東北地方の工業の趨勢^{すうせい}から類推する力が求められているといえよう。

タ 窯業・土石製品^{ようぎょう}が該当する。1960 年に 3 位となり、1985 年に 5 位となり、2010 年は表に登場しなくなる。これは必ずしも窯業・土石製品の急激な衰退を示すものではない。総事業者数をみると、1960 年次と比べると格段に増加しており、この地域の工業が発展したことを示している。窯業・土石製品が事業所ごとならまだしも、市の単位で大幅に拡大することは考えにくいから、他の工業の発展によって窯業・土石製品の占める割合が低下したと考えるのが適切であろう。

チ 電気機械器具が該当する。1985 年に首位になり、2010 年にはさらにその割合を増加させて首位に立っている。1980 年代ごろから高速道路沿いに工場が建設されて電気機械器具工業が増加した。元来、東北地方は交通の

便の悪さと人口規模から工業の立地が進まなかったが、東北自動車道などの開通によって交通網が整備されると、土地と人件費が安価なため機械工業の組み立て工場などの立地が進んだ。その後は IC 関連産業も進出した。

ツ 日本の中核的な工業の 1 つ、**輸送用機械器具**が該当する。2010 年に初めて登場し、2 位になっている。近年、東北地方の工業に占める割合が増加している。本問の場合には、割合が低下した窯業・土石製品でもなく、割合が最も多い電気機械工業でもない、という消去法による類推が最も確実であるといえる。

以上より、電気機械器具がチ、輸送用機械器具がツ、窯業・土石製品がタとなる組み合わせの④が正解である。

問 5 **33** 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

岩手県における、交通網と地域の産業のかかわりについての問題。本問のように見慣れないデータの場合は、よりわかりやすい指標に読み替えることが重要である。最初に示されている岩手県のおもな交通網を手掛かりに考えていく。

マ **通勤・通学者数に占める他市町村への通勤・通学者の割合**である。この指標が高くなると、通勤・通学可能な範囲に産業の集積地があり、しかも自地域の産業がそれほど発展していないことを示す。マを見ると、盛岡市や北上市などの周辺地区で高くなっているものの、そこから離れると急激に値が低下することから、これに該当するといえる。

ミ **1km²あたりの事業者数**である。本問の場合は単純に地域における産業の発展度合いを示すもの、と読み替えることができる。高速道路沿いの盛岡市、北上市などで高くなっており、両市の値が高くなりそうなものは 3 つの指標中では事業者数しかない。

ム **一世帯あたりの自動車保有台数**である。自動車の保有台数が多い地域は、基本的に電車など他の交通網が発展していない山間部の地域などである。ムを見ると、盛岡市では値が低いものの、奥羽山脈が通る秋田県境付近の市町村では値が高くなっている。また、鉄道が通っている三陸海岸周辺の市町村は値が低くなっている。このことから、ムは自動車保有台数を示しているといえる。

以上より、1km²あたりの事業者数がミ、1 世帯あたりの自動車保有台数がム、通勤・通学者数に占める他市町村への通勤・通学者の割合がマとなる組み合わせの④が正解である。

問 6 **34** 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

統計地図に関する基本的な知識があれば解ける問題。実例を想起できるかどうかポイントとなる。

- ① 正 **図形表現図**は、地図中に値を円や棒によって示した図である。市内の観光ごとに訪れる外国人観光客数を図形で表現するのは、数字で示すよりも視覚的なインパクトがあり効果的である。文は適当である。
- ② 正 **階級区分図**は、地域を値によって塗り分ける図である。これでバスの利用者数の地域別の割合を示すと、

数字で示すよりも周辺地域との相互関係がつかみやすくなると考えられる。文は適当。なお、先述の問 5 における岩手県のマ～ムの図はすべて階級区分図である。

- ③ 正 **ドットマップ**は、一致の数量を点として地図中に示した図である。小売店数をドットマップで表すと、より小売店の分布がはっきりと示されるため、高速の開通の影響を調べやすくなると考えられる。文は適当である。
- ④ 誤 **流線図**は人や物の**移動を矢印などで示したもの**である。おもに貿易や通信など、地域間での交流の図示に使われることが多い。駐車場の収容台数は人や物の移動を直接的に示すものではないから、この文は適当でない。よって、④が正解である。

(高橋粒, 吉田七海統)